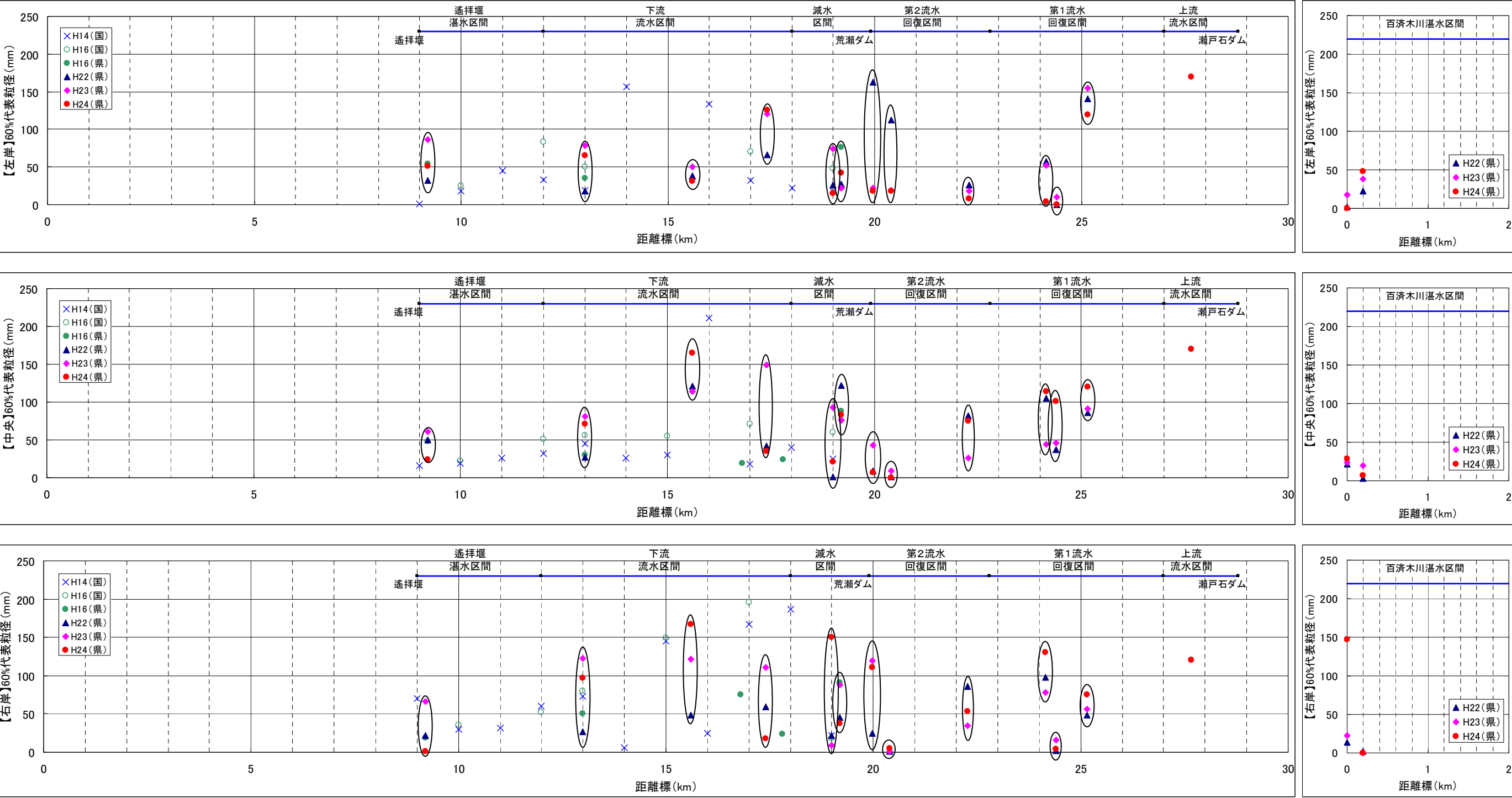


(4) 底質

【参考資料 I-84～I-101 参照】

評価項目	視点	調査結果概要
粒径の変化状況	60%粒径の変化状況	・ H24 は、殆どの地点で H14～H23 の変動内である。 ・ ただし、15k6 下代瀬では粗粒化、17k4 坂本橋では細粒化、19k 大門では粗粒化、24k～25k の西鎌瀬では左岸で細粒化・中央及び右岸で粗粒化が見られた。

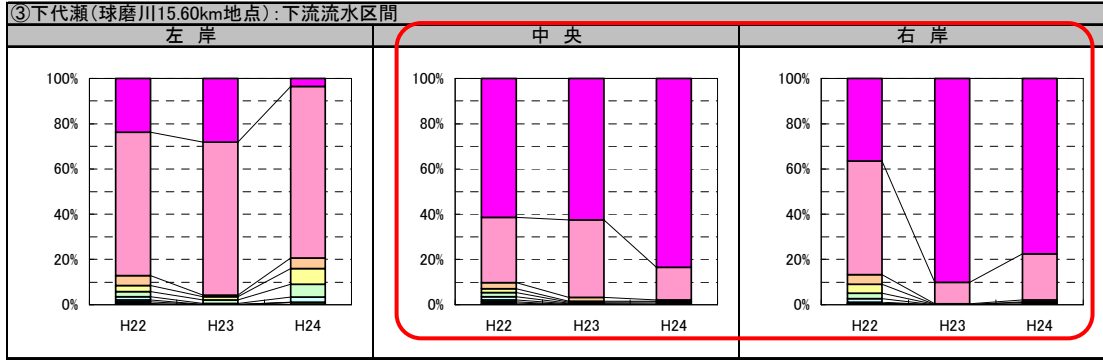
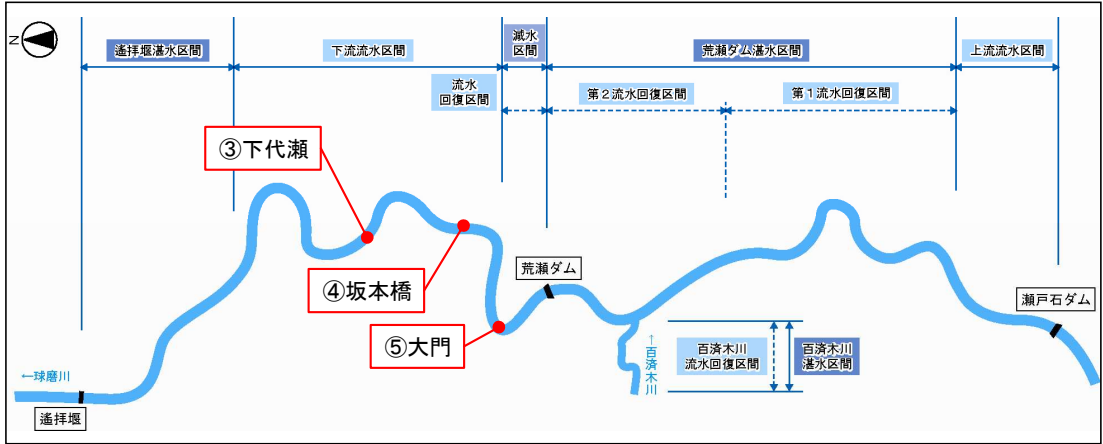
60%代表粒径の分布状況（粒径 75mm 以上を含む場合）



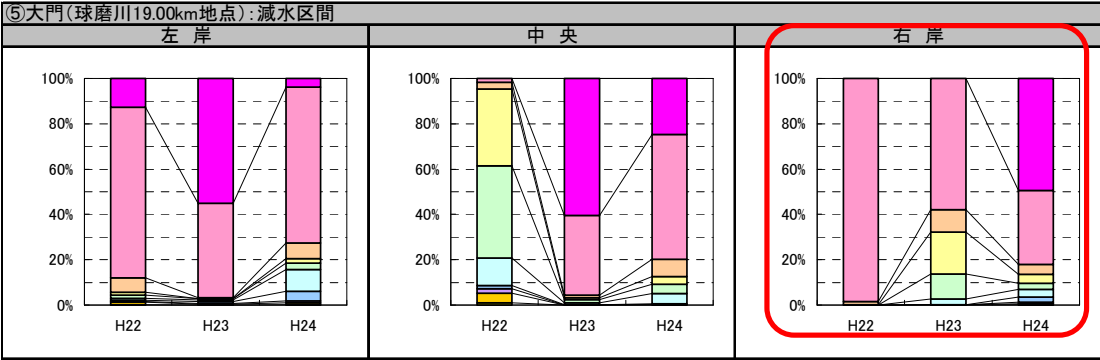
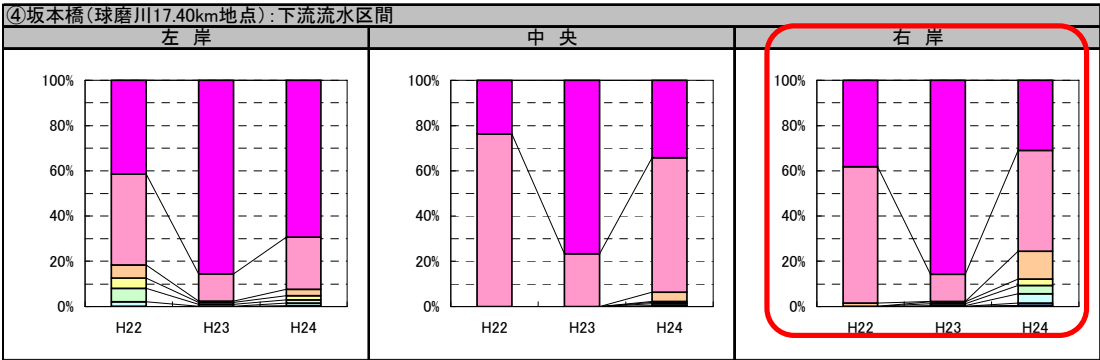
評価項目	視点	調査結果概要
粒径の変化状況	粒径構成比の変化状況	【荒瀬ダム下流】 ・「③下代瀬」の中央及び右岸は、60%粒径では粗粒化の傾向が見られたが、粒径組成比では大きな変化は見られなかった。 ※下代瀬の調査は、国交省による掘削後の2月に実施した。 ・「④坂本橋」の右岸は、60%粒径と同様に細粒化の傾向が見られたが、顕著な変化ではなかった。 ・「⑤大門」の右岸は、60%粒径と同様に、粗粒化の傾向が見られた。
		【荒瀬ダム上流】 ・「⑧佐瀬野」では中央は不規則に変動しているが、右岸は粗粒化している。 ・「⑪百済木川」では、内岸側の右岸で細粒化、外岸側の左岸で少し粗粒化の傾向が見られた。 ・「⑬JR 球磨川第1 橋梁上流」では不規則な変動が見られた。

評価項目	視点	評価概要
粒径の変化状況	60%粒径の変化状況 粒径構成比の変化状況	・「⑪百済木川」の変化は、水位が低下して流水環境に変化し、流速が内岸側で遅く、外岸側で速くなったためと考えられる。 ・「⑤大門」及び「⑧佐瀬野」の変化の原因は不明である。

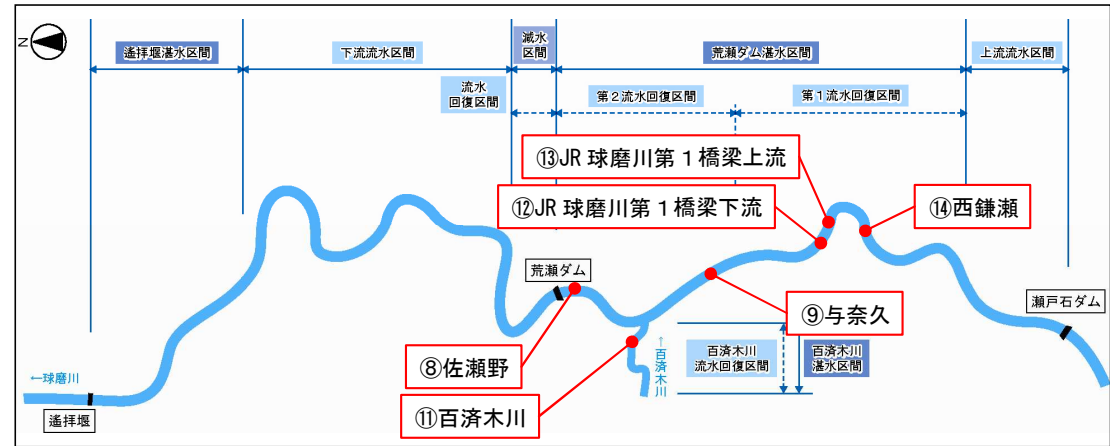
【荒瀬ダム下流】



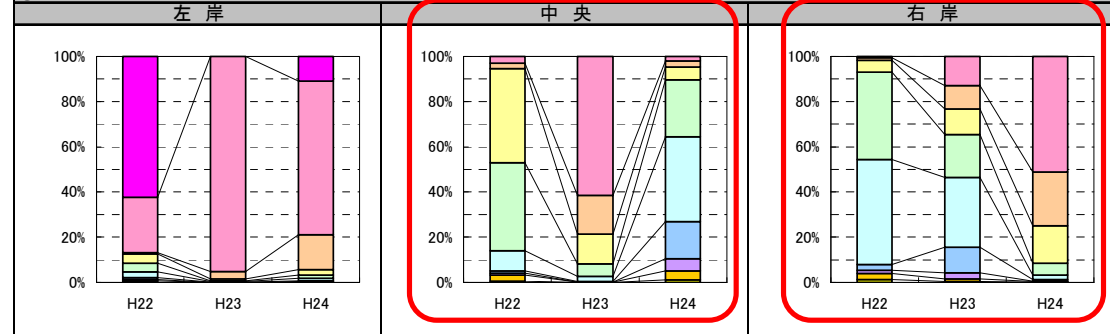
【凡例】 ■大礫分 ■中礫分 ■細礫分 ■極粗砂分 ■粗砂分 ■中砂分 ■細砂分 ■微細砂分 ■シルト分 ■粘土分



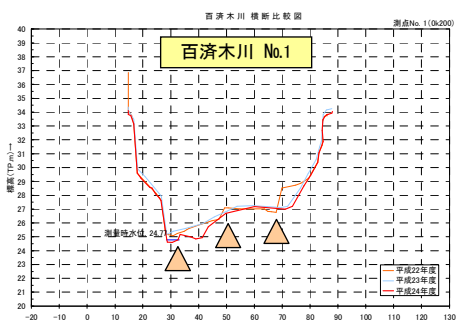
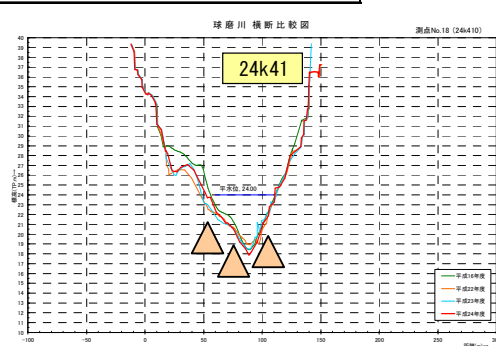
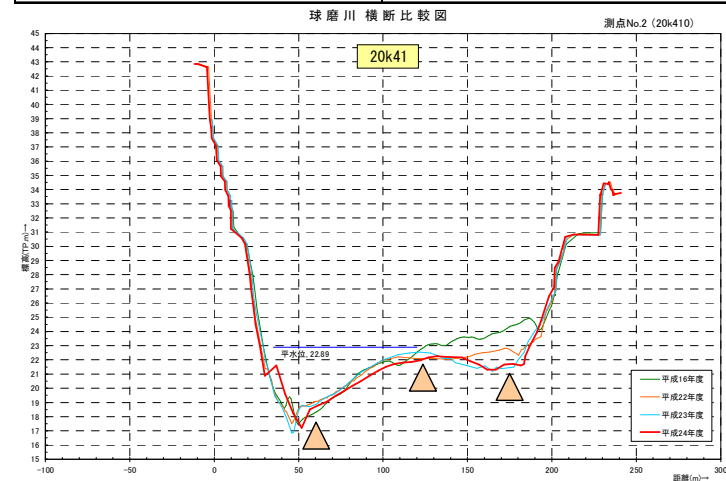
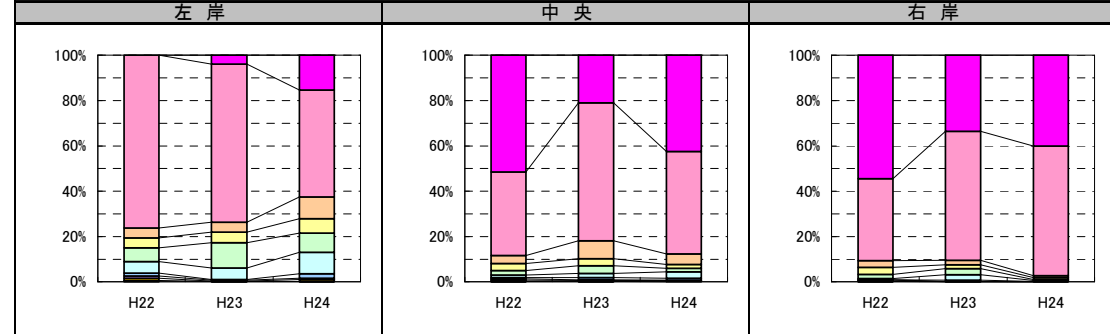
【荒瀬ダム上流】



⑧佐瀬野(球磨川20.41km地点):第2流水回復区分

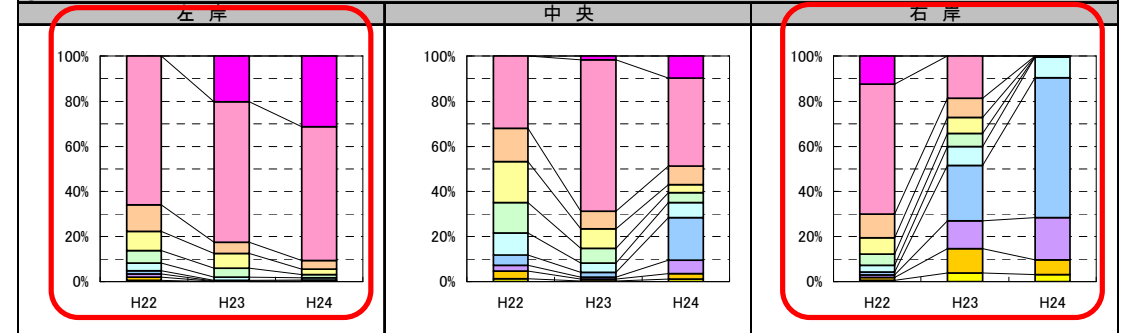


⑨与奈久(球磨川22.29km地点):第2流水回復区分

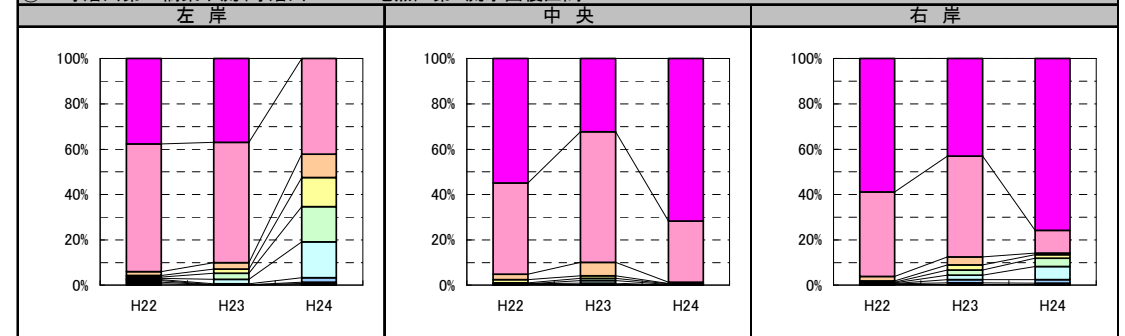


【凡例】 大礫分 中礫分 細礫分 極粗砂分 粗砂分 中砂分 細砂分 微細砂分 シルト分 粘土分

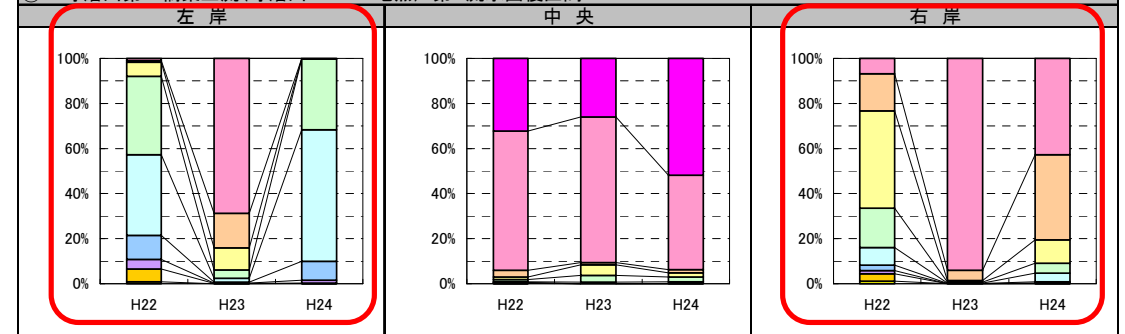
⑪百済木川(百済木川No.1地点):百済木川湛水区分



⑫JR球磨川第一橋梁下流(球磨川24.16km地点):第1流水回復区分



⑬JR球磨川第一橋梁上流(球磨川24.41km地点):第1流水回復区分



⑭荒瀬ダム本川流入部(西鎌瀬)(球磨川25.16km地点):第1流水回復区分

